

防災特集 ～わが町会の備え～

町会長に聞いてみました



高宮町会 地域の防災力向上へ

災害時には、町会としての備えも欠かせません。高宮町会では町会費や各種補助金を活用して、少しずつ防災のための備品をそろえています。

今までに水や食糧、炊き出しの道具、担架、エンジン式発電機や投光器、AED、ヘルメットなど、いざという時に役立つものを計画的に整えてきました。今年は共同募金の配分金で大型テント2張とプライベートテント16張を購入し、避難時の生活環境の向上をめざしました。



これならいいかも！



大型テント組み立て中

なっている町会の防災力向上の基盤は、こうした人となりがつながりです。

町会の講堂は4年前に耐震改修を行いました。市の指定避難所ではありませんが、さまざまな理由で避難所に行けない人も予想されます。この講堂と備品は、災害時の共助に役に立つことでしよう。こうしたハード面の整備に加えて、AEDの操作体験、発電機の使い方講習など、それらを「使える」ようになる訓練も重要です。

避難訓練はまた、普段顔を合わせる機会の少ない住民同士が、共同作業を行うことで互いを知る貴重な場にもなっています。

町会の講堂は4年前に耐震改修を行いました。市の指定避難所ではありませんが、さまざまな理由で避難所に行けない人も予想されます。この講堂と備品は、災害時の共助に役に立つことでしよう。こうしたハード面の整備に加えて、AEDの操作体験、発電機の使い方講習など、それらを「使える」ようになる訓練も重要です。



鎌田地区	
令和8年9月1日現在	
総人口	19,821人
(前年比)	-198人)
世帯数	9,740戸
発行者	鎌田地区公民館 公民館報編集委員会



両島町会 身近で助けあう環境のために



新しい防災倉庫



備えの充実を

消火ポンプとアルミ製リヤカーを購入した関係で、町会の防災倉庫が手狭になりました。また、いくつかに分かれていた防災関係の用具を、1箇所にとまとめた方が活動しやすいとの声もあり、市の補助を受けて、長年親

災害庫と補完し合うていくことも重要なので、地域づくりセンターとも話し合いながら、自身の充実を図りたいと考えています。

東日本大震災では、一週間後に物資が届いたそうです。一週間を生き延びるために必要なもの、幼児、高齢者を守るのに必要なもの、自分たちでそういったものを作る技術と道具を用意しておくことも、これからは大切になってくるのだと思います。

「備えあれば、憂いなし」そのための倉庫にしていきたいと考えています。



なかよし学級さん ありがとう

鎌田地区公民館と鎌田図書館の間の通路は、この夏、色とりどりの花に囲まれて賑やかでした。

実は、花の列が昨年度より一列多く三列になっていました。新たに図書館側に並んだ12個のプランターにマリーゴールドの苗を植えてくれたのは、鎌田小学校なかよし学級の皆さんです。

7月22日、朝のうちに矢崎先生が、学校で種から育てた苗や移植ごてなどを運びこみました。その後、暑い日でしたが、児童11人と3人の先生が配置を考えながら丁寧に花苗を植えてくれました。

植え終わった児童がジョウロで水やりをする様子を見てみると、心の中で「大きなあれ」とつぶやいているかのようでした。



季節の行事を楽しむ

松本の七夕まつり

8月6日、鎌田地区公民館

で「季節の行事を楽しむ松本の七夕まつり」が開催され、松本だけに伝わる月遅れの七夕を30余人の大人と子どもと一緒に楽しみました。

公民館図書・視聴覚委員会主催、子ども会育成会・公民館文化委員会の共催によるものです。

最初は松本市文書館の窪田雅之さんのお話で、七夕人形を飾り、饅頭やほうとうを供えて食べる行事が、青山様やぼんぼん同様、松本藩領であった地域のみに伝わる習俗であることなどを学びました。

続いて、

平和の大切さをテーマに銀杏の木

と男の子の交流を描いた絵本「だっこの木」の読み聞かせの後、休憩を兼ねて七夕饅頭の味を全員で楽しみました。

そして最後は、まつもとまるとご博物館友の会市民学芸員の皆さんの指導のもと、江戸時代から伝わる紙びな

形式の人形作りに挑戦しました。大人も子どもも熱心に取り組む、外の厳しい暑さを忘れる楽しいひと時を過ごしました。



漢検 過去問題チャレンジ企画

8月20日、鎌田地区公民館

で約30人が漢字能力検定の過去問にチャレンジしました。



これは、漢検への興味関心を高め、挑戦の一步を後押しする目的で、全階級の問題を体験できるような企画しう企画し

たものです。

自身の学年相当の問題から順に解く人もあれば、最初から一級問題で腕だめしをする人など、参加者は自由に挑戦していました。

「思い出せそうで思い出せない」「普段は書き順を意識していないので自信がない」などの声が上がっていました。自分の実力を知ることが、新たな学習意欲につながったのではないのでしょうか。また、脳トレとしての活用も期待できそうです。

地域で見守る夏休み

夏休み中の鎌田児童センター

ターは利用が集中し、多いときは200人ほどの児童が集まるため、過密状態となります。夏の暑さの中で屋外や体育館での活動も制限されるため、活動場所の確保は喫緊の課題でした。

そこで夏休み期間は鎌田地区公民館、鎌田地区福祉ひろば、さらには両島公民館など周辺施設が緊急的に居場所を提供しました。それぞれ管理・運営が異なる施設ですが、垣根を越え、空いている部屋を

活用してもらいました。

鎌田児童センターの舟田恵理子館長は「近隣施設を利用させていただき、子どもたちも安全に過ごせました。皆様のご協力に感謝いたします」と話していました。



両島公民館にて

雑感

人工知能 (AI)

が暴走して、自律的に攻撃をしかけるといいうSF映画のような案件がいくつか発見し、アメリカ政府

や議会は危機感をもって規制強化に向けた動きを見せていることが報じられた▼この報道を耳にした時、手塚治虫の『火の鳥・未来編』が頭に浮かんだ。舞台は西暦3404年の地球。人類は5ヶ所に地下都市国家を築き、それぞれが電子頭脳を指導者とする国家体制の下で暮らしていた。ある案件を巡って電子頭脳同士が双方の正しさを主張し合い、人間の意思の届かない所で宣戦布告がなされ、超水爆をしかけ合って爆発させた結果、人類はあつという間に滅亡した件が衝撃的だった▼今回は、AIが自我をもって暴走したわけではないというが、命令を出していないという、自ら手段を選択して実行できることが証明された一件でもある▼AIを便利に、上手に使いこなせると信じている人も多い。AIに支配されてはいけない部分を堅持しつつ生きていく自覚の必要な世の中が近づいているということだろうか。

(小山淳二)